

上野天神祭：中町

中町の「しるし」は菊慈童と言われ 1802 年に作られた。装飾の中心の像は菊の花に囲まれた少年である。「しるし」の見送幕は、明時代（1368-1644）の中国宮廷の官服から作られたと伝えられている。

「だんじり」の名前の前半部分である其神山は、新古今和歌集の歌に由来する。後半部分の葵鉾は、屋根から突き出た立ち葵が飾られた鉾からきている。日本の葵は京都の最大の祭りである葵祭の公式な植物である。様々な花が「だんじり」の内側の天井から水引幕、見送幕まで飾られ、屋根には光り輝く金箔と宝石が施されている。破風には、雲竜が複雑に彫られている。

中国の歴史と伝説からの 2 つの出来事が各幕に描かれている。胴幕には、中国東晋時代（266-420）の詩人陶淵明（365-427）が故郷に帰る様子「帰去来図」が描かれている。これは、菊を愛した陶淵明の有名な詩への言及である。見送幕には、描いた龍に命が吹き込まれたと言われるほど熟練していた中国の画家、呉道子（680～760）の龍の絵が再現されている。